

原発は人類の手に負えない！ 廃炉までたたかおう！

■ 高浜原発うごかすな！ 1・22関電包囲全国集会に千人！

大阪高裁で行われている3、4号機運転差止め大津地裁仮処分決定に対する抗告審は、12月26日に審理を終了し、2月にも決定が出されようとしています。その前に「原発いらない」という私たちの意思を示そうと、上記の集会とデモが行われました。

中之島公園女性像前でデモ出発前集会が行われ約400人が結集しました。主催者側から若狭の原発を考える会の木原壮林さんが「脱原発は民意になっている」とあいさつしました。その後、原子力発電に反対する福井県民会議、さいなら原発・びわこネットワーク、さよなら原発神戸アクション、さよなら原発なら県ネットの発言が続き元気よくデモに出発しました。

デモ出発時に雨が降り始め、冷たい雨の中のデモとなりました。解散地点の西梅田公園に着くころ雨が上がりました。その後は三々五々、関電前まで歩き、4時から始まる集会を待ちました。

時間きっかりに本集会が始まりました。今度は強風のなか、震えながらの集会となりました。木原さんの主催者挨拶の後、青森から鹿児島まで全国から集まった17団体が発言しました。泊原発の廃炉をめざす会はメッセージで参加しました。

この集会で「原発廃炉まで粘り強く、あらゆる手を尽くして闘おう」との決意をともにしました。次ページに集会決議文を掲載します。



2017年2月3日

STOP原子力★関電包囲行動

ブログ：<http://stop-kanden.seesaa.net/>

連絡先：東大阪市源氏が丘16-10 源氏が丘教会気付

「1・22高浜原発うごかすな！関電包囲全国集会」決議文

原発が、人類の手におえる装置でないことは、福島の大惨事が大きな犠牲の上に教えるところです。福島事故から6年になりますが、未だに10万人近くが避難生活を強いられています。長期の避難生活は、健康をむしばみ、家族の絆を奪い、大きな精神的負担になっています。多くの方が避難生活の苦痛で病死され、自ら命を絶たれました。それでも、そのような悲惨を創り出した政府や電力会社は、いま、事故補償費の節約のために、高放射線地域への避難者の帰還を強要しています。

一方、福島事故で溶け落ちた原子炉は、高放射線で、今でも内部は殆ど分かっていません。汚染水は垂れ流され続け、「汚染水対策の切り札」とされた凍土壁はほとんど効果を上げていません。汚染土壌の除去・除染はごく一部の地域の表層に限られ、汚染土壌を詰めたフレコンバッグはポロポロになっています。原発を動かせば、何万年も保管しなければならない使用済み核燃料が生まれます。消滅法も安全保管法もありません。

原発大事故の原因の一つは、地震ですが、その時期と規模を予測できるほど科学技術は進んでいません。そのことは、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本・大分大震災を予測できなかったことから明らかです。これらの地震は「未知の深層活断層」が動いて発生しています。地震の多発する国に原発はあってはならないのです。

このように原発は、現代の科学技術で制御できるものでなく、人の生命と尊厳を蔑（ないがし）ろにするものです。

さらに、昨年12月、経産省は福島事故に関わる廃炉費や賠償費などの事故処理対策費が想定の2倍近くの21兆5千億円に膨れ上がったと発表しましたが、廃炉法も、汚染水漏洩防止法、汚染土壌処理法も決定していない現時点での想定ですから、この金額は、さらに膨大になると予測されます。使用済み燃料や廃棄物の処理や保管に要する費用も予想できないほど膨大です。原発は、経済的にも成り立たないことは明らかです。

それでも、関西電力は高浜原発を始めとする原発の再稼働に躍起で、昨年1月と2月に再稼働を企（たくら）みましたが、4号機再稼働時に2

度もトラブルを起こしました。再稼働準備中や再稼働直後のトラブルは、川内原発、伊方原発でも起こしています。すなわち、再稼働を進めた全ての電力会社が、トラブルを起こしたのです。このことは、原発の点検・保守や安全維持の困難さを示唆し、配管の腐食や減肉などの老化が進んでいることを示すとともに、' 傲慢で、安全性を軽視することに慣れ切り、緊張感に欠けた電力会社が原発を運転する能方・資格を有していないことを実証しています。また、原発再稼働にお墨付きを与えた新規制基準が極めていい加減な基準であり、原子力規制委員会の審査が無責任極まりないことを物語っています。なお、今月12日に、高浜原発3号機の蒸気発生器伝熱管の損傷が明らかになりましたが、一昨年の川内原発での伝熱細管の破損と考え併せると、30年を超えた老朽原発の危険性は、明らかです。それでも、関西電力は40年越えの老朽原発の運転延長まで強行しようとしています。許されるものではありません。

ところで、一昨年、伊方町で行われた住民アンケートでは、原発再稼働反対が賛成の2倍でした、昨年の鹿児島県、新潟県の知事選では、脱原発を掲げる候補が圧勝しました。

昨年末には、高浜原発の「地元中の地元」の音海地区の自治会が、老朽原発運転反対を決議しました。国際的にみても、ドイツ、イタリアに続いて、リトアニアが脱原発に向かい、昨年11月にはベトナムが原発建設計画を白紙撤回し、今月11日には台湾が脱原発法を成立させました。アメリカも原発を縮小しています。このように、脱原発、反原発は社会通念すなわち民意です。この民意の故に、大津地裁は、高浜原発の運転を差し止めたのです。大阪高裁の抗告審でも民意に従った決定を勝ち取らなければなりません。一方、経済的利益のみを考えて、民意に敵対する関西電力を徹底的に糾弾しなければなりません。

最後に、若狭の原発事故では福島事故とは比較にならないほど深刻な事態を引き起こしかねないことを強調します。若狭の原発から100km圏内には、京都府、滋賀県の全域、大阪府、兵庫県のかんりの部分が含まれます。福島では、事故炉から50kmの飯舘村も全村避難であったことを考えると、若狭の原発事故では、数百万人の避難になりかねません。不可能です。また、1,450万人の水源びわ湖が汚染され、飲料水を失います。北陸、関西の住民に甚大な被害を与え、これらの地方を

廃墟にしかねません。原子力防災とは避難訓練ではありません。重大事故の原因である原発を全廃することこそ原子力防災です。

原発事故は、自然災害とは異なります。地震や火山噴火のような自然災害を止めることはできませんが、原発事故は止められます。原発は人が動かしているのですから、重大事故が起こる前に、人が原発全廃を決意して、原発全廃の行動に起てば良いのです。

本日、ここ関西電力前に結集した私達は、決意を新たにし、政府、電力会社の心胆（しんたん）を寒からしめるような行動に決起し、原発の全廃を闘いとることを決議します。

2017年1月22日

「1. 22高浜原発うごかすな！関電包囲全国集会」参加者一同



(写真は朝日新聞 2月21日)

高浜原発クレーン倒壊、強風対策怠る 当日は暴風警報

高浜原発で1月20日夜、大型クレーンが倒壊して建屋2棟の一部が損壊する事故が起こりました。クレーンメーカーがマニュアルに従った対策を取っていなかったということです。それで2号機の原子炉補助建屋と核燃料を保管する燃料取り扱い建屋の屋根の上にアームが倒れました。

暴風警報が出ていたにもかかわらず、マニュアルを無視するとは、原発をなめ切った態度というほかありません。クレーンメーカーの怠慢は施工主の関電の怠慢です。もし、建屋に穴が開くような事故だったらどうなっていたでしょうか？事故というものは小さなミスが積み重なって、大きな事故につながります。大事故が起こらないうちに関電は原発を廃炉にしてください。